

第 381 回
日本泌尿器科学会新潟地方会
《 プログラム・抄録 》

日 時：平成 29 年 3 月 4 日（土）午後 2 時 00 分
会 場：ホテルオークラ新潟 4 階 『 コンチネンタル 』
新潟市中央区川端町 6-53 025-224-6131

次回 第 382 回新潟地方会（三大学合同地方会）予告
日時：平成 29 年 6 月 10 日（土）
会場：古名屋ホテル（甲府市）
演題申込期限：未定

- ※ すべての PC のみの発表とさせていただきます。
- ※ 口演時間は、7 分。討論 3 分（時間厳守）

951-8510 新潟市中央区旭町通 1 の 757
新潟大学大学院腎泌尿器病態学分野
日本泌尿器科学会新潟地方会
TEL：025（227）2289／FAX：025（227）0784
会長 富田 善彦

1. 両側腹腔内精巣に対して腹腔鏡下に一次的精巣固定術を行った1例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

長谷川素、山名一寿、小原健司、安楽力、山崎裕幸、富田善彦

2歳の男児。出生時より両側非触知精巣を認めた。前医よりMRIにて両側腹腔内精巣と診断され、腹腔鏡下手術を目的に紹介受診した。臍下の5mm portより腹腔鏡を挿入し観察すると、両側精巣は内鼠経輪に存在していた。両側精巣に著しい委縮はなく、精巣動静脈、精管は温存されており、両側精巣を一次的に固定可能と判断した。臍レベルの左右に5mm portを増設し腹腔内操作を施行、外鼠径輪部を通して陰囊内へ固定した。周術期トラブル無く、術後の固定も良好であった。手術ビデオを供覧する。

2. 精巣鞘膜悪性中皮腫の1例

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

渡邊和博、結城恵理、瀧澤逸大、丸山 亮、笠原 隆、原 昇、富田善彦

症例は75歳、男性。主訴は10年来の無痛性の右陰嚢腫大。CTにて右精巣腫瘍、右後腹膜転移疑い、傍大動脈リンパ節転移疑いの診断となった。右高位精巣摘除術を施行し、免疫染色の結果から精巣鞘膜悪性中皮腫と診断された。術後3ヶ月のCTで転移病巣は不変であったが、術後5ヶ月のPET-CTにて肺転移を認め、放射線治療や化学療法も考慮したが、進行は緩徐であるため経過観察の方針となった。若干の文献的考察を踏まえて考察する。

3. EnzalutamideでG4の血小板減少を来した1例

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

村田 雅樹 瀧澤 逸大 丸山 亮 笠原 隆 原 昇 富田 善彦

症例は76歳男性。cT3bN1M1b, iPSA174, GS5+4=9の転移性前立腺癌に対し、LH-RH antagonist / agonist + bicalutamideで加療するも去勢抵抗性となり、flutamideの後にEnzalutamide 160mg/dayを開始した。投与13日目で血小板減少を認めEnzalutamideを中止したが、その後1.0万まで低下した。中止から9日目で7.0万まで回復し、中止後30日目に半量(80mg/day)から再開した。以後Enzalutamideを漸増するも、再度血小板減少を来すことなく経過している。

4. 当院での陰茎癌の治療成績

新潟県立がんセンター新潟病院

石川晶子 斎藤俊弘 武田啓介 小林和博 谷川俊貴

2000年～2017年間に当院で治療した38例を対象とした。診断時の年齢は中央値74歳(25-92歳)、全生存期間の中央値は88.6か月で、5年生存率は66.6%であった。原発巣に対する初回治療は、手術が35例、放射線治療が3例のうち2例では照射後に再発し手術を行った。診断時に9例、経過中に5例でリンパ節転移を認め、リンパ節転移からの生存期間の中央値は113.0か月であった。リンパ節転移を来した症例の臨床経過につき報告する。

5. 腎上極の癒着が予想される腎癌に対する非開胸・経胸腹的腎摘出術

新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

山崎裕幸、山名一寿、黒木大生、結城恵里、安楽力、小原健司、富田善彦

腎癌に対する手術は腹腔鏡手術が増えているが、大きな腫瘍や癒着が想定される症例に対しては、今もなお開腹手術が選択される。大きな上極腫瘍や副腎転移症例に対する腎摘除術では、Chevron 切開では上極の展開に難渋することがあり、経胸腹的腎摘出術が選択される。第9肋骨を落とす従来の経胸腹的腎摘出術の際に横隔膜、胸膜を注意深く剥離することで開胸を避けるよう試み、4症例で非開胸のまま良好な視野を得られた。手術時間は平均226分、出血量は平均327mLであった。1例に術後イレウスを認めたものの、輸血施行症例や気胸合併症例はなく、安全に手術可能であった。

14:50~15:40

座長 田所 央

6. アピラテロン投与中に異常高血糖をきたした2例

立川総合病院 泌尿器科¹⁾ 同 内分泌内科²⁾

鳥羽智貴¹⁾、諏訪通博¹⁾、上原徹¹⁾、浅見美穂²⁾

アピラテロン投与が原因と強く疑われた異常高血糖を2例経験したので文献的考察を含めて報告したい。症例1:74歳男性、糖尿病で治療中。アピラテロン投与3日目に意識障害で救急外来受診。血糖578mg/dlあり、糖尿病性ケトアシドーシスの診断で入院加療を行った。血糖値が安定したところでデカドロンを開始したが異常高血糖は認めなかった。症例2:79歳男性、糖尿病既往なし。アピラテロン投与6か月後に倦怠感と歩行困難を訴え入院。血糖556mg/dlあり、血糖管理で症状は改善した。血糖値が安定したところでプレドニン併用でドセタキセル開始したが異常高血糖は認めなかった。

7. 好酸球増多を認めた悪性腫瘍の2例

長岡赤十字病院 泌尿器科

池田正博、鈴木一也、米山健志

【はじめに】好酸球増多は寄生虫、アレルギーなどで引き起こされるが悪性腫瘍もその原因となり得る。また好酸球増多を伴う悪性腫瘍症例の予後は悪いとされる。

【症例】1例目は75才男性。治療前の白血球数 $20890/\mu\text{L}$ (好酸球数4700)。左腎盂癌の診断。外科的治療後に化学療法施行中だが病勢進行している。2例目は67才男性。白血球数 $26170/\mu\text{L}$ (好酸球数2540)。有転移後腹膜脂肪肉腫の診断。化学療法施行したが急激に進行し診断後4ヶ月で死亡した。

8. 新潟大学医歯学総合病院泌尿器科における2016年の手術統計

新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野

山名一寿、田崎正行、丸山亮、笠原隆、中川由紀、原昇、小原健司、齋藤和英、富田善彦

当院での手術は増加傾向にあり、手術室での件数は2014年422件、2015年483件、2016年520件であった。大学での職員数や手術枠に大きな変化がないにも関わらず手術件数の増加が見られている。これは緊急手術依頼が多いこと、手術室スタッフや麻酔科医との連携により、入れ替え時間の短縮が図られていることが大きい。ロボット手術の待機期間などで迷惑をかけていることもあり需要に応える使命はもちろんあるが、安全性の担保もさらに追求していきたい。

9. 腹腔鏡下膀胱憩室切除術の経験

新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 泌尿器科
星井達彦、西山勉

66歳男性 2011年11月に排尿困難があり、近医を受診した。巨大膀胱憩室の診断で導尿1330mlであった。以降自己導尿で尿路管理を行っていた。膀胱憩室に関しては積極的な治療を勧められなかった。2016年4月、今後の尿路管理目的に当科を紹介受診した。腹腔鏡下手術を提示し、同意され、同10月17日腹腔鏡下膀胱憩室切除術を施行した。手術時間は3時間25分、出血は175ml(含尿)であった。術後1か月目の尿流量検査では排尿量137ml、残尿は100mlであった。自己導尿は行っていない。

10. 新潟県の前立腺がん検診-27年度検診の結果報告、及び年次推移

新潟県前立腺がん検討委員会
小松原秀一、西山勉、片桐明善、片山泰士、米山健志、
羽入修吾、斎藤俊弘、波田野彰彦、原昇、富田善彦

平成27年度新潟県前立腺がん検診の結果(速報値)が公表された。人口521,902、検診対象者数276,191、受診者数34,535、受診率12.5%(人口の6.6%)要精検者数2,545(要精検率7.4%)、精検受診者数1,887(精検受診率74.1%)、前立腺がん191(がん発見率(受診者10万人対)553.1、早期がん割合69.6%、陽性反応的中率7.5%)であった。検診結果の年次推移、市町村別の結果も報告する。

《休憩 15:40～15:45》

日本泌尿器科学会新潟地方会総会
15:45～16:00

Niigata Uro-oncology seminar

日時

2017年3月4日(土) 16:15~

会場

ホテルオークラ新潟 4F 「コソチソタル」

新潟市中央区川端町6-53 TEL : 025(224)6111

PROGRAM

特別講演

(16:15~17:00)

座長：新潟大学大学院

腎泌尿器病態学・分子腫瘍学

教授 富田 善彦 先生

『分子標的時代における 腎癌局所療法』

演者：大阪大学大学院医学系研究科

器官制御外科学講座(泌尿器科学)

教授 野々村 祝夫 先生



Votrient®

主催 ノバルティス ファーマ株式会社



AFINITOR®



Expert Seminar

謹啓 時下、先生には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、Expert Seminarを下記の通り開催致します。

ご多忙中誠に恐縮に存じますが、何卒ご出席賜ります様ご案内申し上げます。

謹白

日時：2017年 3月 4日(土) 17:00より

場所：ホテルオークラ新潟 4階「コンチネンタル」

新潟県新潟市中央区川端町6-53 TEL:025-224-6111

「前立腺癌治療UPDATE」

座長 新潟大学大学院 腎・泌尿器病態学・分子腫瘍学分野
教授 富田 善彦 先生

演者 近畿大学医学部泌尿器科学教室
主任教授 植村 天受 先生

主催
第一三共株式会社

※当日は、ご参加頂いた確認のため、ご施設名、ご芳名のご記載をお願い申し上げます。
なお、ご記載頂いたご施設名、ご芳名は医薬品および医学・薬学に関する情報提供のために
利用させて頂くことがございます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



《大学院特別講義》
第31回新潟泌尿器腫瘍セミナー
1stアナウンス

日時 平成29年3月4日(土) 18:00~19:10
※地方会の進行状況により多少前後することがございます。

場所 ホテルオークラ新潟 3F「クラウンの間」

〒951-8053
新潟県新潟市中央区川端町6-53 TEL:025-224-6111

18:00~18:10

話題提供 大日本住友製薬株式会社

18:10~19:10

特別講演

座長 新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器病態学分野
教授 **富田 善彦** 先生

『腎細胞癌におけるサイトカイン療法と
免疫環境について』

慶應義塾大学医学部 泌尿器科学教室

教授 **大家 基嗣** 先生

※セミナー終了後に情報交換会を用意致しております

- 参加費として1,000円徴収させていただきます
- 本セミナーは日本泌尿器学会専門医制度(3単位)が認められております

共催 新潟泌尿器腫瘍セミナー
大日本住友製薬株式会社

※本セミナーは地方会開催期間中のため、一般参加者の交通手配は行えません。ご了承ください。